



近江八幡・沖島方面での宿泊研修を実施しました!

「近江八幡・沖島方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、3月14日(水)～15日(木)の春季休暇期間を利用して、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構と協同で宿泊研修を実施しました。学生20名(医学生12名、看護学生8名)が参加しました。

沖島

現地で活動する看護師さんや住職のお話を聞き、消防艇の見学、島内の散策をしました。その後、看護師さんを囲んで昼食をいただき、意見交換を行いました。

救急時には地元の有志の消防団が消防艇で患者さんを最寄りの港まで運ぶ必要があり、特殊な地域事情に対して地域社会全体で柔軟に対応していた事に感嘆した。今後日本において地域医療と地域社会の連携が欠かせない事を感じ、沖島のあり方は一つのモデルとなり得ると感じた。(医学科第1学年)



沖島で伺った看護師さんのお話が、地域の皆さんに受け入れられる医療者になるためにはどのようにすればよいかを考えるヒントになり、とても興味深かった。(医学科第1学年)

沖島で訪問看護に携わっている方が、ロコミが大事とおっしゃっていたのが印象的です。このような地域で医療を充実させていくには、地域の人々との関係性が非常に重要であることがうかがえました。また、現実としてドクターヘリは使っておらず何かあれば救急艇で搬送していること、歯科の受診がまだまだであることなど厳しい側面も知ることができました。(医学科第3学年)

ラコリーナ近江八幡

たねやグループが自然を愛し、自然に学び、人々が集う繋がり場の場として造られました。屋根一面が芝におおわれたメインショップが印象的でした。



近江八幡市旧市街地散策

ボランティアガイドさんの案内で、近江八幡市旧市街地を散策しました。ウォーリス記念館や旧八幡郵便局など、趣のある建物を訪ねました。

近江八幡の歴史的な街並みや左義長まつりなどの文化について知ることができました。(医学科第2学年)

研修に参加する度に、滋賀県の新しい魅力や、医療圏の特色を知ることができています。また、次回も参加したいと思います。(看護学科第2学年)



グリーンホテル Yes 近江八幡

【第1部】講演会・意見交換会等
「在宅医療の現状と課題～多職種連携の現場から」
近江八幡市長寿福祉課 社会福祉士 山岡 昌代 氏

「地域包括ケアと在宅療養支援病院について」
ウォーリス記念病院 管理者 ミツ浪 健一 先生

第1部での講演会では、在宅医療や地域包括ケア等の取り組みについてお話をいただきました。第2部では、研修先でお世話になった方々や里親、室員の先生方と情報交換を行いました。



死に直面した患者さんにどのような言葉をかけて、どのように看取っていくのか。自分は今年度から臨床実習も始まるので、そうしたことも含めて考える良い機会になりました。また、滋賀医大の先輩の医師の方がこんなに立派な先生になられていることを非常にうれしく思いましたし、自分の励みにさせて頂くことも思いました。(医学科第4学年)



近江八幡市立総合医療センター

病院長から病院の概要について説明を受けた後、院内の各部署を見学させていただきました。最後に、本学OBの医師から、近江八幡市の魅力や病院の内容等のお話がありました。



この研修で1番印象に残った言葉は、ホスピスの先生が講義の中でおっしゃった「not doing but being」です。(中略)医療者として何もできなくても同じ人間として側にいることはできるというお話を聞き、看護において患者さんへ寄り添う姿勢が大事だということを感じました。(看護学科第3学年)

ウォーリス記念病院

事務長から病院の概要について説明を受けた後、ホスピスに勤務していただける本学OBの医師から、自身の体験を踏まえたお話を聞かせていただきました。その後、礼拝堂やホスピス棟、看護小規模多機能型居宅介護施設・友愛の家などを見学しました。

研修の様子は里親HPにも詳しく掲載しています!!

地域里親学生支援のホームページ
(<http://satooya.shiga-med.ac.jp/>)をご覧ください!